

仙塩浄化センターの周辺は処理施設の被災を原因とする臭気が発生し、周辺住民の方々に大変なご迷惑をおかけしております。臭気の発生源としては、仮設沈殿池(図-①)、水処理4系列(図-②)、汚泥仮置場(図-③)の3箇所となっており、臭気対策を実施しながら年内中の全撤去を計画しています。(『臭気対策編』参照)

仮設沈殿池は7月に撤去が完了し、水処理施設の貯留汚泥は8月中旬から撤去作業を開始しています。作業時の臭気を考慮して、夏場の作業を自粛していた場内に仮置していた汚泥については11月から場外搬出を開始します。

臭気発生原因

① 仮設沈殿池(撤去済)

マンホール溢水対策のために、多賀城緩衝緑地公園内に設置しました。
【7月末に撤去工事が完了しています。】

② 水処理施設(第4系列)

汚泥処理施設の機能停止により、水処理施設内に汚泥を貯留しました。

③ 汚泥仮置場

津波由来の土砂と汚泥が混じり合った汚泥を仮置しました。



現状と今後の予定

・水処理施設(第4系列)

水処理施設(コンクリート製の水槽)に貯留している汚泥を抜き取り、脱水処理をしてから場外へ搬出します。作業中の臭気対策として、大型テント内に脱臭装置を設置し、汚泥脱水作業は全てテントの内部で行っています。汚泥の脱水、場外への搬出を8月中旬から開始しています。



【水処理施設4系列】



【テント内部 脱水作業】

- ・引き続き搬出作業を継続します。
- ・年内中に搬出を完了します。

・汚泥仮置場

場内に穴を掘って仮置きしている汚泥に固化材を混入して固化処理をしてから場外へ搬出します。搬出作業時の臭気を考慮し、シート及び覆土により臭気対策を実施した上で、窓を開けて過ごす事が多い夏場の搬出を自粛しました。



【シート覆工状況】



【覆土状況】

- ・11月から搬出作業を開始します。
- ・年内中に搬出を完了します。

汚泥は下水の浄化処理の過程で毎日発生しますが、現在は仮設汚泥処理施設が稼働しており、新たに発生する汚泥はその都度脱水処理を行い場外へ搬出しています。

震災直後、設備が機能停止し、処理不能となった汚泥が臭気の原因となり周辺住民の方々には大変なご迷惑をおかけしておりましたが、年内まで全て撤去作業を完了させる予定ですので、引き続きご理解とご協力をお願いします。